

第162号

目次

◇イベント名：泉州夢花火

*:

1 ポートエッセイ

— コロナ禍での「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

依然、世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世界中を震撼させている。我が国においても、夏以降感染者が急増し感染者は10万人を超え、各地で感染のさらなる拡大の傾向が見られるなど予断を許さない状況にある。加えて今後は、冬季に同時流行が懸念される季節性インフルエンザへの対応も急務である。

まさに、今年初めには誰にも予測ができなかった1年となったわけであるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止と社会経済活動の両立を一日も早く実現させ、この困難な状況から脱しなければならない。

四方を海に囲まれる海洋国家である我が国日本の生命線であり、国力の源泉となる港湾の整備・振興は、コロナ禍を脱するための非常に大きなカギとなる。10月22日、私が会長を務めている日本港湾振興団体連合会をはじめ、我が国の港の整備・振興に関わる主要5団体の代表が例年通り砂防会館別館に集まり、感染対策に十分配慮したうえで「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を開催した。

大会当日は感染症対策が十分に行われた会場に、来賓の赤羽国土交通大臣、竹下自民党港湾議員連盟会長、大口公明党海事・港湾振興評議員懇話会副会長をはじめ、多くの国会議員や国土交通省幹部の皆様、また、港湾所在都市の首長といった日頃から港湾振興に心を寄せていただいている心強い方々300人以上が集まり、我が国の港湾の更なる整備・振興に向け意見交換することができた。

大会では、「日本の経済と暮らしを支える港湾の整備振興を強力に進めることが、今後の更なる地域経済と国力の発展につながる。感染症への対応を進めると同時に、海上輸送ネットワークの強靱化、産業の国内回帰及び地域観光の再興等に迅速に取り組む必要がある。」との強い想いのもと、「国民の安全・安心の確保」「持続的な経済成長の実現」「豊かで暮らしやすい多角連携型の地域づくり」の3つの柱を強力に推進するとした要望書を決議し、その場で赤羽国土交通大臣に採択した要望書をお渡しし、令和3年度の港湾関係予算の確保をお願いした。

また、大会後には、全国港湾知事協議会会長である仁坂和歌山県知事を筆頭に、全国市長会港湾都市協議会を代表して、副会長の久保田浜田市長、日本港湾協会の須野原理事長、そして当連合会の私と4名で、財務省の船橋大臣政務官、自民党の二階幹事長、林幹事長代理、下村政調会長と面会し、我が国の経済と暮らしを支える港湾の整備・振興によりコロナ禍で疲弊した経済と暮らしを立てなすため港湾予算の確保をお願いした。

かつて北前船の寄港地として日本の物流を支え、新潟港開港150周年を契機に「みなとまち」として新たな都市づくりを展望する新潟市をはじめ、我が国において港が果たす役割は、経済や観光、まちづくりなど多岐に渡り、各地の港に対する期待は大変大きいものがある。今後とも港湾に関連する我々が一丸となり、港湾の整備・振興に向けて取り組んでいかなければならないことを確認し、大会を終えることができた。

最後に、コロナ禍における大会運営にあたられた事務局の方々のご苦勞に感謝申し上げる。

2 トピック

●北海道初！ 苫小牧港を「釣り文化振興モデル港」に指定

～「釣り文化振興モデル港」指定証交付式の開催～

令和2年8月3日、苫小牧港が北海道で初めて「釣り文化振興モデル港」に指定され、10月6日に苫小牧市役所において、指定証交付式が開催されました。

交付式では、高田昌行国土交通省港湾局長の代理として、魚住聡国土交通省北海道開発局港湾空港部長から岩倉博文苫小牧市長へ指定証が交付されました。指定証を受け取られた岩倉市長からは、「釣り人のマナー向上、立ち入り禁止箇所への侵入等のトラブル減少、釣り客増加に伴う地域の活性化に期待している。また来年度の本格開放に向けて、安全対策に万全を期し、期待に応えるように進めたい。」とコメントがありました。

苦小牧港では、令和3年度に東港区の内防波堤の先端から約500mの本格開放を目指しています。9月27日に行われた試験開放では、低気圧通過後ではありませんでしたが、サバやサヨリなど12種、約200匹の釣果もありました。

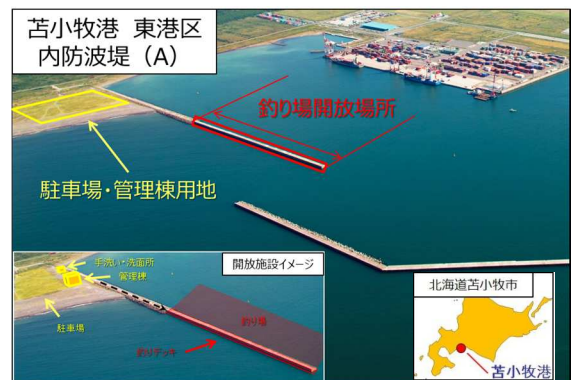
今後、苫小牧港海釣り施設協議会(事務局:苫小牧港管理組合と公益財団法人日本釣振興会北海道地区支部)を中心に、安全対策及び管理体制などの検討を進めて行く予定です。

本格開放後は、新たな市民の憩いの場となることが期待されます。



指定証交付式の様子

(右から北野 公益財団法人日本釣振興会北海道地区支部長、岩倉 苫小牧市長、魚住 北海道開発局港湾空港部長、佐々木 苫小牧港管理組合専任副管理者)



釣り開放施設概要

●山形県酒田海洋センターで「庄内 はたらく船セレクション」を開催しました！

(東北地方整備局 山形県港湾事務所)

山形県では、7月21日(火)から10月25日(日)まで、港湾関係者の協力のもと、「庄内 はたらく船セレクション」を山形県酒田海洋センターにおいて開催しました。

近年、酒田港をはじめとする庄内地域の港には貨物船の他に作業船や漁船、客船等様々な種類の船が寄港し、にぎわいを見せています。この企画展示は、多くの方々に港灣や海洋への関心や親しみ

を持っていただくことを目的に実施したもので、主に庄内地域で働き、庄内地域の港に寄港する船を紹介する写真やパネルなどを展示しました。

海洋センターへ来館した多くの方々に御覧いただき、船や港に対し関心や親しみを持っていただけたようでした。また、山形県水産研究所の漁業試験調査船「最上丸」の模型や自衛艦のプラークは珍しく、興味を持つ人が多くいたようでした。



特別展示の様子

●海と日本PROJECT「海の学校」が開催されました

(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)

令和2年10月14日(水)、日本財団が推進する「海と日本PROJECT」の一環で「海の学校」が開催され、伏木富山港湾事務所も協力しました。

この「海の学校」は、北前船の寄港地として日本遺産に選定された全国16の道府県で小学生を対象とした「海」を学ぶ授業を行っています。

富山県では「海の祭り けんか山(伏木曳山祭)と富山の昆布文化」と題し、現地見学ツアー等が行われ、高岡市立伏木小学校5年生34人が参加しました。

当所が行った現地見学ツアーは「現在までの海運の発展を学ぶ」をテーマに伏木港が一望できる「みなとオアシス伏木」の代表施設である伏木コミュニティセンターの屋上で伏木港の歴史や現在の状況等を説明、多目的ホールで「みなと」に関するクイズや間違い探しなどを行って、楽しみながら「みなと」を学んでもらいました。参加した児童からは「昔から地域の人が守ってきた海や文化を大切にしていきたい」との感想を話してくれました。

今回の「海の学校」で、児童たちは「みなと」をより身近に感じるとともに、その役割や重要性について理解を深め関心を持った様子でした。



伏木港の歴史を説明



クイズで「みなと」を学習

●ウィズコロナ時代の新たなクルーズに向けて

(関東地方整備局 港湾空港部)

10月21日(水)、国内最大のクルーズ船である「飛鳥Ⅱ」が3日間のトライアルクルーズを終え、横浜港に帰港しました。

トライアルクルーズは、10月19日～21日の3日間で横浜-神戸間を往復する日程で行われ、横浜港に帰港した際には、トライアルクルーズ中に新型コロナウイルス感染者が発生したことを想定した訓練が行われました。

訓練は、9月18日に国土交通省により公表された「クルーズの安全・安心の確保に係る検討・中間とりまとめ」や関係業界団体が策定したガイドライン等に基づいて行われ、船内で体調をくずした高齢の夫婦が検査で新型コロナウイルス感染症への感染が判明したことを想定し、船内でのクルーズの受入に関する情報伝達訓練や、岸壁に着岸し、感染者の下船から医療機関へ搬送するまでの動線を確認する訓練などが行われました。

「飛鳥Ⅱ」は30周年オープニングクルーズとして11月2日～5日の間、横浜港発着(清水港寄港)の3泊4日クルーズを行った他、「にっぽん丸」が7日～9日の間、横浜港発着(清水港寄港)の2泊3日クルーズを行いました。



横浜港大さん橋での訓練の様子(その1)



横浜港大さん橋での訓練の様子(その2)



4日間のクルーズを終え横浜港大さん橋に帰港した飛鳥Ⅱ(11月5日)

●世界津波の日に「令和2年度近畿地方整備局・堺市合同総合防災訓練」を実施

(近畿地方整備局 近畿圏臨海防災センター)

「世界津波の日」「津波防災の日」である11月5日(木)、堺2区基幹的広域防災拠点において南海トラフ巨大地震の発生を想定した、近畿地方整備局・堺市合同総合防災訓練を開催しました。

今回の訓練は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般市民の方の参加や見学は行わず、参加機関の規模も縮小し、32 機関、約 300 人の参加での実施となりました。

当日の訓練では、航路・道路の啓開や緊急支援物資輸送等の『堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点機能訓練』と、津波避難や漂流者救助等の『津波避難・消火救護訓練』を『新型コロナウイルス感染防止対策の徹底』を行った上、実施しました。

また、訓練の様子を YouTube によるリアル配信を行い、来場頂けなかった方々にも映像を通して御覧いただけるようにしました。

来たるべき南海トラフ地震に備えて地域の防災力向上を図るためには、施設整備によるハード対策に加え、防災訓練や防災関係機関の連携強化等のソフト対策が不可欠です。

本訓練は、近畿圏臨海防災センターが運用を開始した平成24年より毎年実施されており、今年は規模を縮小しましたが、近年では約 40 機関、避難訓練の学生を含む約 5,000 人の参加を頂いております。

今後も地域の防災力向上に向けて、訓練の充実や防災関係機関の連携強化に努めて参ります。



漂流者救出訓練



救出訓練



緊急物資輸送訓練
(耐震強化岸壁での物資積込)



海洋環境整備船「クリーンはりま」
による航路啓開訓練

●「第16回大阪湾フォーラム～高校生と考える未来の大阪湾～」を開催

(近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所)

令和2年10月3日(土)に「ほっといたらあかんやん！第16回大阪湾フォーラム」を開催しました。大阪湾フォーラムとは、大阪湾の環境に関心を持つ個人や市民団体、行政機関などが集まり、大阪湾の将来を考えるフォーラムで、平成16年度より年1回、17年間にわたって開催しています。

近畿地方整備局等が事務局となり、国の機関と地元自治体等によって結成されている「大阪湾再生推進会議」では、現在、「学校教育との連携」を重点的に取り組んでいます。そこで、今回のフォーラムでは、高校生が環境に関する活動や研究内容を発表し、大阪湾の未来について考え、みんなで討議してもらうこととしました。

また、フォーラム開催にあたり、コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、「大阪湾フォーラム」を初めてWeb会議形式で開催しています。

発表内容は、マイクロプラスチック、漂着ごみ、地域に生息する生物、河川の水質など多岐にわたる内容で、大人たちに気後れすることなく、高校生同士が積極的に質問を行うなど活発な展開となりました。

また、今回、約50カ所からWebにて参加していただきましたが、その中には大阪湾から遠く離れた東京や九州在住の方も参加していただいております。Web会議形式で開催したことによって、新たな広がりを感じることができました。



Web会議の様子

http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/kobegicyo/pdf/etc/201028_oosakawan_forum_report.pdf

●「瀬戸内海クルーズ推進会議 クルーズ船社誘致活動・体験乗船」を開催

瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局

(近畿・中国・四国・九州地方整備局 港湾空港部)

「瀬戸内海クルーズ推進会議」では、瀬戸内海クルーズの再開に向けた取り組みとして、10月29日(木)に観光型高速クルーザー「SEA SPICA(シースピカ)」への体験乗船と、10月30日(金)、クルーズ船社を招聘してのパネルディスカッションと誘致活動を開催しました。「瀬戸内海クルーズ推進会議」は、瀬戸内海が「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海となることを目指し、瀬戸内海沿岸自治体、及び国の関係機関で構成する「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」の下

に同推進会議を設置(平成30年)しており、クルーズ船社を招聘しての誘致活動については、今回で4回目の開催となりました。

10月29日(木)は、今回招聘した各船社及び同推進会議構成員の約30名が乗船して、寄港地観光(広島港～呉港～下蒲刈島～大崎下島～大久野島～生口島～広島港)を体験していただき、10月30日(金)は誘致活動(商談会)として、構成員の各自治体(近畿、四国、中国、九州地区より瀬戸内海沿岸の18自治体が参加)より船社に対してPR活動を行いました。

誘致活動(商談会)では、クルーズバケーションの代表取締役社長・木島氏より、「乗船客へ観光地の印象を残すためには、地域住民と触れ合う機会が重要。そのため、地域住民によるガイドの育成等も必要」、クリスタルクルーズの日本地区セールスマネージャー・小金氏より、「地域特有のストーリーを紹介できる観光要素を紹介してほしい。例えば日本には寺院等が多くあるが、何が違うかわからない。ストーリー自体が地域のアピールポイントとなる。季節物の観光要素はタイミングがシビアであるため、通年で楽しめる観光要素をアピールしてほしい」、日本クルーズ客船の営業部企画課担当副長・嶽尾氏より、「有名な観光要素であれば、乗船客もすでに知っていることが多いため、ツアーに組み込むことは少ない。地元でしか体験できない観光要素を求めている」など、貴重なご意見をいただきました。

また、クルーズ船社への誘致活動に用いる“瀬戸内海クルーズガイドブック(日本語・英語版)”と“瀬戸内海のPR動画(日本語・英語版)”を同推進会議において作成し、早速今回の誘致活動において使用してPRを行いました。今後においても、瀬戸内海沿岸自治体が連携して、瀬戸内海の魅力をより一層PRしていくとともに、クルーズの再開により、寄港地に賑わいが再び戻ることを願っています。

○瀬戸内クルーズHP : <https://setouchi-cruise.uminet.jp/>

○中国地方整備局記者発表資料 : http://www.pa.cgr.mlit.go.jp/pdf/press_hk_201023.pdf



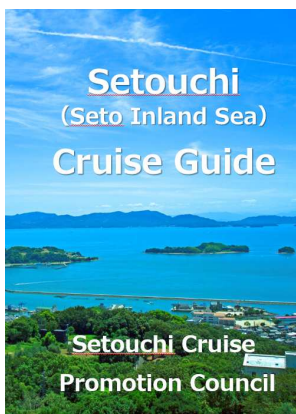
SEA SPICAへの体験乗船の様子



パネルディスカッションの様子



誘致活動（商談会）の様子



瀬戸内海クルーズガイドブック



瀬戸内海のPR動画

●コンテナ等によるスモールスケールLNG海上輸送に関する検討会を開催

（沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課）

沖縄総合事務局開発建設部は「コンテナ等によるスモールスケールLNG 海上輸送に関する検討会」を3回にわたり開催しました。検討会でコンテナ等によるスモールスケールLNG海上輸送に関する課題と対応策について取りまとめました。

LNGは環境負荷の少ない燃料であり、今後、発電等の燃料として沖縄本島以外の離島においても利用が見込まれています。一方で我が国ではコンテナ等を活用したLNGの小規模国内海上輸送（スモールスケールLNG海上輸送※1）が行われておらず、離島での利用を実現するためには、輸送上の課題を整理する必要がありました。

このため、沖縄本島から宮古島へのLNG海上輸送をモデルケースとして行政機関、民間事業者からなる検討会を今年1月に設置し、検討を重ねてきた結果、関係する諸制度が整理され、課題と対応策について今般取りまとめられました。

今後、本検討会で整理された結果に基づいて、LNGの小規模国内海上輸送が行われ、離島地域での電力の安定供給や環境負荷の低減が図られることが期待されます。

【各検討会の議事】

- 第1回議事: 離島向けLNG海上輸送に関する現行制度の課題の整理
- 第2回議事: スモールスケールLNG海上輸送に関する現行制度の課題に対する対応案の検討
- 第3回議事: 検討結果のとりまとめ※2

※1: 小型LNGタンカーを除く。※2: 第3回は書面開催。

○取りまとめの結果についてはホームページに掲載しております。

<http://www.ogb.go.jp/kaiken/minato/R021007>



検討回開催の様子

[illegible]

3 お知らせ(みなとのイベント情報)

[illegible]

◇イベント名：消防艇が定期歓迎放水でおもてなし

【開催日時】令和2年8月21日～令和2年12月25日までの間の毎週金曜日（計19回）

【場所】神戸市中央区波止場町メリケンパークBEKOBEMOニュメント南側海上

【概要】メリケンパーク内のBEKOBEMOニュメント南側海上にて、15時から約15分間のカラー放水を行います。見ごたえのある放水で皆様を元気づけます。

【問合せ先】神戸市消防局水上消防署

【U R L】<https://www.city.kobe.lg.jp/a57572/638918616634.html>



◇イベント名:泉州夢花火

【開催日時】令和2年12月26日(土)・27日(日)

- ① 受付 13:00～
② 花火打ち上げ 18:00～

【場 所】大阪・泉南りんくう公園

【概要】2020年、開催を表明した関西唯一の大規模花火大会
単日15,000発、両日30,000発を予定

【問合せ先】一般社団法人 泉州 光と音の夢花火

電話 06-4708-6658 FAX 06-4708-6471

(受付時間:平日 10:00~18:00)

メール; info@senshuhanabi.com

【U R L】<https://sensuhanabi.com/>



* : * : * : 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 : * : * : * * : * : * :

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕1-3-4

TEL : 03-5776-0630、FAX : 03-5776-0631

e-mail: bcf06323@nifty.com

[illegible]